

平成二十八年 論語に学ぶ人間学セミナー

好評を受けて今年で六年目に入った論語セミナー。今年からは、「仮名論語」に加えて、「男の風格をつくる論語」（伊與田 覺著 致知出版社）をテキストに学んでおります。後半の講義は、三木英一先生の人生を熱く語っていただき、本物人間に学ぶセミナーとして十二月までの講座となっております。いつからでも参加できますので、別添お申込書にて申し込みください。

今回は第三回目となります。雨の降る中、新規の方を含め多くの方にご来場していただきました。まず始めは仮名論語の素読からになります。

仮名論語 子路第十三

子曰く、剛毅木訥、仁に近し。

「剛(物事に恐れず立ち向かう強さ)、毅(苦難に耐え忍ぶ強さ)、木(質実で飾らない)、訥(口数が少ない)なのは、最高の徳である仁に近い」

この章句は、論語の中でも有名な章句になります。対照的な言葉として学而第一に、巧言令色、鮮こうげんれいしよく すくなし仁という章句があります。(二)とさらに言葉を飾り、顔色をよくする者は、仁の心が乏しいものだ)

「男の風格をつくる論語」(伊與田 覺著 致知出版社)

第二講 孔子の心を伝えるものたち―顔淵と曾子

「当下一念」とうげいちねん今の一念を、持ち続けることが大切だという意味。自分のいる場で最後まで全力でやり尽くすことがいかに大事か。これは簡単なようでなかなか難しいことだと思えます。人は雑念が入り、寄り道をしてしまうこともあるかと思えます。このような時に論語は、道しるべとなってくれるのではないのでしょうか。改めて学ぶことの重要性を実感しました。

三木英一先生の人生講話 「縁尋機妙 多逢聖因」

縁尋機妙―良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していく様は、誠に妙なるもの。多逢聖因―いい人に交わっていると良い結果に恵まれる。

人間は、できるだけいい機会、いい場所、いい人、いい書物に合うことを考えなければなりません。また、縁は育てるもの。恵まれるものではなく、自ら育てていく努力をしていくことが大切である。最後に三木先生自身の縁尋機妙・多逢聖因にまつわる話をして頂きました。

次回 第四回は、五月十一日(水) 午後六時三十分からです。皆様とのご縁を心よりお待ちしております。